

大阪における文化芸術関係者への 新型コロナウイルスの影響に関する 実態調査2021 報告書【自由記述編】

令和3（2021）年10月

調査主体：大阪市

協力：大阪アーツカウンシル



はじめに

この資料は【個人対象】Q18、【団体・事業所対象】Q19「現状に対するご意見や今後の支援策についてのご提案、すでに実践されている取り組みなどあれば、ご自由にお書きください」の回答を紹介するものです。

- ① 有効回答は、個人169名（207件）、団体・事業者80名（93件）。
- ② 全ての回答をほぼそのまま収録した。ただし③の作業を加えている。
- ③ ほぼ同様のものは1つを除き省略、個人、団体・事業所が特定できるものは要約、複合的なものは分割、誤字脱字を修正した。
- ④ 次ページのとおり傾向ごとに分類し、それぞれに個人（回答順）→団体・事業所（回答順）で記した。
- ⑤ 複合的かつ分割できないものは、主な内容に注目し分類した。
- ⑥ 個人は【個】、団体・事業者は【団】を文頭につけた。

自由記述の傾向



コロナ禍における文化芸術活動の課題 | 施設の制限（客席50%）

[1/2]

【個】アマチュアクラシック音楽団に所属しています。感染対策を徹底して公演をしたいです。しかしながら、蔓延防止や緊急事態宣言でホールや練習場が閉鎖になり、活動停止せざるを得ません。練習時は全員が常にマスクを着用し、ワクチン接種を推奨、直行直帰を約束しています。公演開催にあたってのガイドラインはあるかと思いますが、ホール自体が閉鎖されてしまうと中止するしかありません。何とか活動を継続できるよう、配慮をお願いします。

【個】公演が実施できたとしても現在の様に緊急事態宣言に伴い集客が半数の50%しか出来ないと収益も半分に減る為に自己負担金が増えてしまいます。その為に今まで色々企画して行っていた事業をどの様に今後活動を続けていくかが悩むところです。芸術は継続する事にも意味のある事だと思うので、どうにか継続をできる手段が見出せればと思っています。

【個】小劇場での活動は、今まで、客席を満席に埋めることができギリギリ採算がとれるかどうか、で考えていましたが、今は客席を100%埋めることができないのが当たり前で、どうすればいいのだろうと思います。

【個】客席50%のままでは、赤字が増え、負担が増え、疲弊するばかりになる。

【個】中止、延期への支援策はこれまでいろいろ行われてきましたが、収容率50%でも実施した公演への支援策は実質ありません。そもそも50%で収益が出るわけがありません。関わった公演の出演料は最低レベルで協力して頂いているものであってもです。収容率の判断は自治体に委ねられ、クラシック音楽公演等でも一律50%と規定し、販売済の50%超えは許容しないところもあります。運営サイドはある程度見越して配券していますが、オーバーしてしまった場合の購入者への連絡、払い戻しは膨大な作業となり、コロナ対策で通常より煩雑な準備のなかで大きな負担となります。出演者、観客ともに安心して安全に実施するべきであることは承知していますが、多くの芸術団体がもう持ちこたえられないところまできていると感じます。

コロナ禍における文化芸術活動の課題 | 施設の制限（客席50%）

[2/2]

【団】 中学校高校の芸術鑑賞行事を主に活動してまいりましたが、感染拡大が始まって以来、軒並み中止や延期が続いています。実施が出来ても客席の50%制限のため、同じ予算で1ステージだったものを2ステージしないといけない状況です。これでは全く採算が合いません。この現状を知っていただいて、何とか支援をお願い致します。

【団】 会場の50%以下のキャパシティ制限が厳しいです。入場料などが半分以下だと採算が取れないのでこの制限を解除していただきたい。70%75%など段階的でも構いませんので。

【団】 我々の扱うロック、ポップスにおける収容の縛りは採算的にとても厳しく、収容自体の緩和を切にお願い致します。

コロナ禍における文化芸術活動の課題 | 稽古・練習 [1/3]

【個】オーケストラに所属してますが、練習場として使っている公民館などが閉鎖すると練習できません。ホールはOKでも練習場が無いと活動できません。本番が出来るホールと練習する場所とはセットです。

【個】大阪市内の区民センターの多くで、「演劇・合唱利用禁止」という規則が設けられ、稽古ができなくなりました。少人数でも小声でも、声を出さなくても、「演劇であれば一律禁止」というルールに納得がいかなかったのですが、先日、別の区民センターで、「大阪市からそのような指示は受けていない。演劇だから一律使用禁止などあり得ない」といわれ、意味がわかりません。私も、演劇だから一律禁止はあり得ないと考えます。市の施設の利用を、現実に即したルールで統一して頂けたらありがたいです。

【個】稽古ができるよう、公立施設を通常開館(22時まで開ける、演劇利用OK)にしてほしいです。

【個】無観客での演奏会を実施し動画配信しました。オーケストラなので、リモート練習で合わせるのは難しいので、可能なメンバーのみで練習しましたが、余裕のある広さの練習場所の確保が難しいです。

【個】京都で演劇活動をしております。青少年活動センターなどを使用しているのですが、緊急事態宣言などでセンターそのものが閉鎖されてしまうのはとても困ります。また、演劇活動をする上でセンターの閉鎖によりレンタルルームを借りる必要があります。

【個】金銭的な助成の他に、活動の拠点となる稽古場施設の拡充にも目を向けてほしい。

コロナ禍における文化芸術活動の課題 | 稽古・練習 [2/3]

【個】稽古場等の時間帯が短縮される事による技術的損失が大きく、また、それを理由にした上演中止等も多くみられます。上演が継続して行われる事も大事だが、上演が可能かどうか分からない不安な状況で有料施設を借りるのは難しい。いわゆる芸術関係のみの職に付いている人だけで回しているわけではない業界でもあります。実質的に、大阪府市が現在行われている一番の舞台芸術団体への補助は、稽古場としての施設利用貸出の部分が大きい。使用団体を限った形で換気、消毒を徹底でき、継続して稽古ができる環境を無償提供していただければ、技術的損失を免れる部分も多いし、イベントの自粛等が行政に指示された場合にも速やかに退避しつつ、稽古を継続する事が可能になります。稽古場の無料開放を率先してすすめて頂く事で、アーティストは安心して文化の継続的行動に務める事が出来ます。またそれらの支援を継続的に行う事ができれば、将来的に金銭的にも自立したアーティストの「プロ」を養う場所としても機能するはず。そうならば、大阪万博を控える中、大阪が文化を後押しする先進的な自治体であると喧伝するためにも、多いに有効な方法だと考えます。

【個】緊急事態宣言等で、稽古場が時短になり、稽古が出来ない。場所を探すことが大変。

【個】時短要請により、練習場所が確保できないことが1番困っています。

【団】特に稽古場に苦労しています。安価で演劇の稽古に使用しやすい施設の拡充を切にお願いしたい。

【団】緊急事態宣言延長によりキャストスタッフが稽古に来れない日が続きやむなく公演中止の判断をいたしました。昨年延期を決定して1年半稽古を続けて来たのに残念です。公演ができたとしても、お客様は目標動員にはほど遠い状況です。このような団体はたくさんあります。的確な判断とご支援を引き続きよろしく願いいたします。

コロナ禍における文化芸術活動の課題 | 稽古・練習 [3/3]

【団】 以前は120名ほどが一同に集まり、練習に励んでおりましたが、今は緊急事態宣言中は活動を停止し、まん延防止措置発出中は人数を半数から4分の1に減らし、分散練習を余儀なくされています。一年に一度のペースで公演を行っていましたが、今は練習回数と練習時間が全く足らず、次公演の計画を立てることが非常に難しくなり、困っております。合唱を生き甲斐にしておられる方々（当団はお年を召した方が大変多いです）の唯一の楽しみが奪われ続けており、ストレスになられなていないかというのも心配なところではあります。

【団】 稽古できる場所を増やしてほしい。公演できる劇場・会場を増やしてほしい。

コロナ禍における文化芸術活動の課題 | 中止に伴う影響 [1/1]

【個】 政府や自治体の判断でイベント中止するのだけはやめてほしい。それまでにかけて時間と手間に対する対価は補償されないのだから。

【個】 練習等準備期間もあるのに、突然中止を突きつけられるのは苦しい

【個】 緊急事態宣言が出され、病院の確保が出来ない場合無観客になる事を恐れている。全ての苦労が無駄になる。

【個】 なによりも、観客数の制限や突発的な中止・延期などがあることによる、財源の確保が難しい。それを補填していただける何かがあれば、活動にふみきれる。

【団】 自主事業においては、コンサートを実施する上で、ホール施設などの新型コロナウイルス対策に則ることはもちろん、配席を独自に工夫しソーシャルディスタンスの確保に努め、聴衆がより安心して足を運べる演奏会づくり心がけている。また出演者に外国人がおり、緊急事態宣言発出やまん延防止重点措置等の事由により入国が制限された場合には、国内の代役を立てて中止とならないようにしている。依頼事業においては、主催者側による公演中止になれば、出演者にキャンセル料が発生するが、学校や文化庁主催の学校鑑賞会では、キャンセル料を請求することができないため、自費にて支払っているため、中止が重なると経済的負担が増大する。無観客公演で有料ライブ配信等を急遽取り入れることは難しく、仮に実施できたとしても、有観客の来場者数を上回ることもなく、チケット代金も実券を下回るため、代替案としては見込めない。聴衆にとってより安全性を提案し、キャパ数を減らしてでも、通常に近い形で開催実施していくしか、生き残る道は無いと感じる。

コロナ禍における文化芸術活動の課題 | 観客が戻らない [1/2]

【個】 対面実施予定の公演が蔓延防止策や緊急事態宣言等で2週間前にオンライン切替になるなどし、たとえ対面で実施しても来場者数はもとに戻らない。

【個】 現場でできる限りの対策はしているが、風評などで来場数が減少するのは困る

【個】 コロナ禍で開催出来ると思い企画運営していると開催時期頃に感染が増えて延期・中止になる事が多い。開催できても以前の10分の1程度しかコロナ禍の今集客が出来ず生活していく事難しい。

【個】 正直文化芸術について今積極的に取り組もうとなかなか前向きになれない状況です。医療逼迫や感染拡大という「日常が崩れている」状態で「非日常」のエンターテインメントを創造することの難しさ、また今後日常が戻った際でもお客様がチケット代金を支払って客席に戻ってくるのかという「客離れ」に対する不安もあります。

【個】 個人でクラシックコンサートを企画・開催しています。コンサートの開催は可能になりましたし、定員の100%も認められるようになったものの、クラシックに足を運ぶ人には高齢者が多く、実際の来場者は50人程度です。（コロナ前でも100人と少し）一方でホールのレンタル料、人件費はコロナ前と同じ。やればやるほど赤字です。それでも、人前で演奏する機会がなくなると演奏者の技量は維持できません。

【個】 度重なる政府からの要請により演奏機会が激減しています、演奏する機会を得ても聴きにきてくださるオーディエンス数も激減しています、将来に向けて金銭がかからないように家から出ずに技術の向上の鍛錬に励むくらいしかできません。各方面の知人から応援をいただき、音楽雑誌（Jazz Japan）や各種ラジオにて宣伝していますが、社会の風潮が変わらない限り会場に足を運んでくださるオーディエンスの数は増えない気がします。どうなってしまうのでしょうか。

コロナ禍における文化芸術活動の課題 | 観客が戻らない [2/2]

【個】 コロナによる演奏会の機会が減った事により、生活が厳しくなってしまった。また開催されても、コロナ感染の恐怖から来場希望者が減り、集客がしにくい状況にある。

【団】 音楽を発表する芸術活動だけであれば、配信、及び、音源制作だけで問題ありませんが、業種の性質上顧客と対面する、もしくは公演を「体感」し、顧客の「思い出」「記憶への刷り込み」を喪失すると、他の娯楽への選択肢が増える昨今、顧客離れが著しいのが現状です。その中で、極めて小規模にて対面公演を実施する機会を増やし、コロナ禍初期に起こったクラスターの当事者として、顧客へのイメージの回復をあらゆる面で行っております。

コロナ禍における文化芸術活動の課題 | オンライン [1/1]

【個】 舞台表現と映像は違う。これまで映像を撮っていなかったものが商品として映像を提供するために十分な準備をするにはこれまで必要としていなかった費用が増える。

【個】 2020年度より、意を決してオンライン配信事業やオンライン配信の発表形態に活動を移行し現在は、オンライン配信事業で生計を立てております。2021年度も引き続き、オンライン配信事業が順調に受注しておりますが業界全体としてオンラインから対面へ早く元にもどきたいという様な要望を多く耳にします。その場合、20年度21年度にオンライン配信へ移行した業者・作家などは多くが一時的なものとして投資した費用や時間などの回収が行えなくなることが考えられます。

【個】 公演に関して。代替え案として配信などを行って来たが、配信ばかり続けていると有観客での演奏技術能力が著しく低下するのが手に取れるし、直接のコンタクトが減ることで観客層が失われている。安易に無観客配信のみに移行することは難しいという分かった。しかしながらなんとか有観客で行う取り組みをしても、やはり直前でキャンセルだったり観客が集まらなかったりして、大赤字を背負っている。

【個】 有料動画配信もやってみましたが、視聴収入は支払った経費の10分の1にも満たなかったです。視聴者側の機材の問題と思われる苦情や不満の声の方が圧倒的に多く、満足のいく配信をするには多額の費用が必要ということもわかりました。

【個】 やはりコンサートは、生の音や波動に触れて頂くことで初めて成り立つものであるため、オンラインでの代用は劣化したものを提供することになってしまい、なるべくこれを利用したくないのが現状です。一刻も早いコロナパンデミックの終息を願います。

【団】 一部の活動を見よう見真似でオンライン発信しているが、多くの人に見てもらっているわけではない。

コロナ禍における文化芸術活動の課題 | 芸能の継承 [1/1]

【個】河内音頭をやっておりますが、軒並み盆踊りが中止になっています。進んでいるグループでは配信などもやっていますが、ノウハウがあまりなく、上層部の人たちの意欲が失われており、配信での盆踊りや稽古などもできない状況です。河内音頭は大阪の重要な文化であり、すでに衰退の一途にありますが、ここ2, 3年で盆踊りが全くできていないことで文化自体が消えてしまう恐れを感じています。会派、グループなど関係なく、重要な大阪の文化・観光コンテンツとして継続できるよう支援いただければ幸いです。

現在の支援への要望 | 制度 [1/5]

【個】特に資金面も厳しく、助成金も、自分たちが活動した経費に充てられても、労働費に充てられないので、創作分野に携わる人間のプラスにはなりません。創作活動の労働についても、多少は支援ができると少しは安心できる人も出るので、いいかと思います。

【個】毎回申請書は変更届を何度も提出し、業務に偏りが出る。申請書を代行してもらえらならお金を払ってでも誰かに委託したいが、それも難しい。オンライン配信の方が対面より資金が高いし、準備手配が3倍の労力。昨年度回答した時とは変容し、とても疲れている。書き方は伝えるので誰か代わりに申請書を書いてほしい。何度も修正が来るうちに申請する気が失せる。

【個】昨年から助成金の拡充や新たな支援事業など、大変頑張ってくださっていると思います。芸術文化はジャンルによって運営や活動の作りが違うので、1つの事業で多くのジャンルを平等に支援することは難しいと思いますが、少しでも支援の範囲が広がる新しい事業につながるように願っています。

【個】新型コロナウイルスに対する不安や怒りの矛先は、飲食店のみならず、各分野に広がっています。中でも流行初期に槍玉に上がった音楽業界の経済的損失と信用の低下については計り知れないものに膨らんでいます。個人・団体の垣根なく、支援策/支援対象が拡充される事を願います。

【個】行政の支援は、特に期待はしてません。とにかく申請が難しく厳しく時間がかかり過ぎ。今の状況に即してません。

【個】申請しようにもこぼれ落ちてしまっており、要件が難しい

【個】助成金や支援金に、出品作家に支払う展示料を認めてほしい。

現在の支援への要望 | 制度 [2/5]

【個】助成対象の活動や公演が、コロナの影響で中止や延期された場合も同等の補償が得られるようにしていただきたい。赤字補填ではなく、必要経費全般に対する助成となる制度設計をお願いします。

【個】①対象経費の一部しか助成されない助成金はとても活用しにくい。現状で赤字を見込んだ公演を主催するのは経済的に負担が大きいため、今回の文化庁A F Fのように、対象経費の全額を助成する制度に改善してほしい。また、チケット収入が上がると助成額が下がる仕組みも見直してほしい。これに関しても、文化庁A F Fのように収入額に影響を受けずに純粋に支出額に対して助成する制度にほしい。②演者のギャラを対象経費として認めない助成金は、認めるように改善してほしい（大阪市芸術活動振興事業助成金など）。ギャラが対象外経費だと、主催者は負担軽減のため演者に低額のギャラを強いることになるため、演者を経済的に苦しめてしまう。また、低額で賄える演者ばかりで編成される公演は質が低下する傾向にあるため、結果として上質な公演を市民に届けられなくなってしまう。これでは助成金の本来の目的が叶えられないと考える。

【個】文化芸術活動の再開や新規事業展開に向けた支援や助成に関して、『申請者の活動経費（日額上限付き）』も対象経費に含める事を検討してください。

【個】緊急事態宣言は続き、公演の中止や延期はいまだに続いているにもかかわらず、大阪市の助成が以前と同様の半額(上限20万円)に戻ったのは納得しかねます。大阪市の見込みが甘かったのだと推察しますし、現状を把握してから予算を組んで欲しかったとは感じました。

【個】他府県に比べて、大阪府市は比較的文化的芸術への補助、支援はして頂いている方だと感謝しています。ただ、余りにも状況が悪過ぎて先の見通しが立ちません。ただ、こんな時こそ世間の皆様に笑顔になって頂く為の芸能だと思しますので、まだまだ頑張りますが、もう少し支援枠が広がれば有り難いです。

現在の支援への要望 | 制度 [3/5]

【個】助成金申請の際の決済方式にクレジットカードや電子マネーの使用も許可してほしい（ポイントが問題視されていることは認識しているが、それよりも決済が繰延べられることによる資金繰り支援の観点にも目を向けてもらいたい。現金や銀行振込よりも決済を遅くできるため）。

【個】公演は中止になってないがAAF不交付に伴うギャラの減額（支払い見込み額が下振れする）ことが多く困っている。

【個】長引く自粛生活に人心も荒んできたと感じる、このような時にこそ、音楽や演劇などの舞台芸術が必要だと感じます。行政には、是非、舞台芸術に携わる人への経済的支援をお願いしたいです。ホール代の全額補助や出演料・運営スタッフへの謝礼・切手代などの通信費を補助対象に拡大してもらいたいです。

【個】文化庁や経産省の補助金は事業費の3/4もしくは半額で入場収入が見込めない現在では残りの額を確保できない。支援金も手続きが煩雑で、申請してから交付までかなりの時間を要する。もう少し柔軟に支援してもらいたい。

【個】提案：大阪市芸術活動振興事業助成金等とても有難いが、決定から実施までの期間が短すぎると思います。すべての施設は予約時に全額キャンセル料が発生し、人気のある展示会場などは1年前より予約が埋まっていました。せめて半年の猶予が欲しい。しかし大阪市の助成金を芸術にという取り組みは素晴らしいと思います。今後共よろしくお願い致します。

【個】申請が通ってから振り込まれるまでのスピードを上げていただきたいです。

【個】アーティストは熱心に活動していても収入に結びつかないことが多いので、融資条件に確定申告などの条件があれば、多くの作家が補助金を受けるのが難しい。また活動資金が少ないので、個展ができず、グループ展参加などが多いことも考慮に入れて考えて頂いたら嬉しいです。

現在の支援への要望 | 制度 [4/5]

【個】自粛のお願いやガイドラインに沿ってイベントをしてきたものの、このままでは満足に生活していきません。イベントをやるのが前提の支援が多すぎて、矛盾を感じます。あとは個人事業主や雑所得で確定申告をしている人たちに支援が行き渡るようにしてほしいです。本当に切羽詰まっています。よろしくお願いいたします。

【団】9月に控えている公演ができるか厳しい状況です。現状は補助金を頂いても赤字です。難しいとは思いますが、支援策の中にコロナ対策設備とか対応人員とかを助成対象としていただけるともっと対応しやすくなると思います。

【団】大阪市芸術活動振興事業助成金の助成金額の上限が40万円の昨年度は、とても助かりました。ありがとうございました。今年度は20万円に戻りましたが、継続か増額して欲しかったです。（申請中でまだ採択されていませんが・・・）これからも大阪市の文化支援に期待しております。私達もより良いものを発信していくために精進いたします。

【団】私どもは劇場施設運営、および演劇などの公演主催、制作を業務としております。公演を主催するには1年以上前から企画を進めております。AFFや大阪市文化芸術創出事業補助金は今年中の公演ということで申請できませんでした。夏に発表があって今年中に公演するものに対しての助成というのは、申請する側にとってはなかなか厳しいと感じました。また劇場を運営する側にとっても、申請して申請が通れば公演します（逆に言えば不採択なら公演しません）、という団体が多く仮押さえが続きました。仮押さえはいつまで、というルール決めはありますが、決定時期が遅いと団体にも迷惑をかけることになるので考慮いただければと思いました。

【団】芸術活動をしている多くの方は、熱意を持っていても収入に結び付かない場合が多いです。補助条件の収入に関わる点を外してほしいと思います。「確定申告していること」です。また、金銭的なことから、主催者（個展や企画展代表）として活動をするのではなく、グループ展参加をして活動している人が多くいます。そのような活動をしていることも補助対象の条件にいただいたら嬉しいです。

現在の支援への要望 | 制度 [5/5]

【団】 昨年の大阪市芸術活動振興事業助成金では支援額が拡充されており、コロナ禍においての厳しい創作活動と公演実施に対して精神的にも経済的にも大きな支えとなり、より良い公演事業を行うことができました。今年度の下半期からは二分の一(最大20万円)助成に戻りましたが、下半期のコロナ禍での文化芸術活動の困難さを鑑みるとやはり大変厳しいものだと感じております。大阪文化芸術創出事業との併用ができないことを踏まえて、以前にもまして苦しくなっている現状に照らし合わせますと、下半期の助成金額も引き続きの拡充を願ってやみません。

【団】 この感染者数が増大し、緊急事態宣言の出されている状況で、お客を入れての事業を前提とした補助金はナンセンスです。すでに採択されている補助金についても、事業を中止しても、雇用を守るために、採択された金額を交付するなどの処置が必要だと強く感じます。

【団】 プロの演奏団体ですが、「自主公演」と「依頼公演」の2本の柱で運営しています。両公演活動の計画がことごとく中止になりました。収入の大きな柱である「依頼公演」のキャンセルに関しての公的補填は一切ありません。また自主公演はJ-LODなどの補助金制度も申請し採択されていますが、とにかく支払いが遅すぎます。そもそも「補助金」とは「給付金」と違い「これこれの活動・支払いに対して何某かの補助をします」という趣旨のものだと思います。つまり「これこれの活動・支払い」が終わってからの支払い請求なのですが、あまりに支給が遅く会場費・制作費・出演料・宣伝費等、先に支払った金額が大きい場合大変な負担を被ります。(特にJ-LOD) 何とかならないのでしょうか？

【団】 文化庁や経産省の補助金が事業費の2/3や半額で、入場収入が見込めない現在、残りの額が確保できない。月次支援金などの手続きが煩雑で分かりにくく、給付まで時間がかかる。

現在の支援への要望 | 施設 [1/5]

【個】区民センターや芸術創造館の利用人数の制限によって昨年度は利用料も半額還付が行われましたが、何故、今年度はその制度がなくなってしまったのか腑に落ちません。安全な利用に協力したい演劇人は多いと思いますし、一回あたりの稽古の人数をしばっている団体も多いと思います。その分、回数を増やしたり広い場所を使ったりできるよう、昨年度の様な半額還付を続けてほしいです。

【個】「大阪文化芸術創出事業」のカバー範囲が私の活動範囲にぴったりハマるものであり、この分野の支援を実施していただけること大変感謝しています。抽選ということで結果待ちではありますが、私以外の同業者いずれかが支援を受けることとはなりませんので、業界全体としてこの支援を活かし状況を好転して行ければと希望を抱いています。大阪市が文化芸術分野の支援・再興に協力的な姿勢を示していることは感謝すべきことであり、励みに感じております。

【個】「大阪文化芸術創出事業（活動支援）補助金」ですが、会場費だけではなくもっと広く対象経費の枠を広げていただけるととても助かります。

【個】大阪文化芸術創出事業補助金は、対象経費の枠を広げてほしい。このままでは劇場が潤うだけになる。本来の事業主体である団体を補助し、コロナ禍を乗り切れるような支援の枠組みを作るべきである。

【個】ライブハウス、クラブ、ミュージックバー、アートスペース、私たちへ全ての創作活動の場を与えてくれる場所とそのスタッフの方々が、経済的に非常に困窮している状態です。私は音楽をしてる者ですが曲を作ってもそれを披露させてくれる場所があって音響さんがスピーカーから音を流し、照明さんがライトを当ててくれてはじめてステージに立つことができます。わたしなどは副業や元々の仕事で食い繋ぎますので、どうか表現の場所であるライブハウス/クラブ/ミュージックバー/アートスペースとそれらを生業にしている方々への支援と援助をどうかお願いします。

現在の支援への要望 | 施設 [2/5]

【個】助成金をいただけるととても助かり意欲も高まります。去年実施されていた半数しか来場いただけないためにホール施設費半額を熱望いたします。

【個】2020年より劇場が次々と閉館し、現在ある劇場も維持が難しく、稽古場となる公民館も夜の使用が制限されていて創作環境が悪化しています。飲食店だけでなく、そういった場所についても助成を考えていただけるとありがたいと思います。

【個】大阪文化芸術創出事業補助金の補助対象を施設使用料だけでなく、対象を広げてほしい。

【個】大阪文化芸術創出事業（活動支援）補助金でのご支援はこの時期のイベント開催に向けて大変助かっております。ありがとうございます。コロナ禍で困難になった公演などの活動において、このような支援策がさらに増える事を願っており、またそれが広く知られていくことを願っています。

【個】感染拡大防止対策を励行し、毎月定例の落語会を人数を半分に制限して継続実施している。毎回赤字であるが文化に接する機会を継続させるため今は辛抱するときとの思いから。また年に一回の落語会も人数を半分に制限し赤字前提で実施している。文化活動への支援施策としての補助金交付が抽選によるのは寂しい。実演者にとって唯一の生活の糧であることに変わりはないのだが。

【個】他の補助金・助成金でも、対象者が過去に有料公演を行った者とある場合が多いです。対象事業は有料に限るとした上で、過去に有料公演をしていなくても、実績があれば（資料を提出など）審査はしてくれるなどしてほしいです。

現在の支援への要望 | 施設 [3/5]

【個】 2019年12月に、ビル全体をギャラリーにする予定でビル購入し、リフォーム後に、ギャラリー運用するテナントに貸す予定であった。ギャラリーの利用が全体的に少なくなっていること、他のビルなどで空きテナントが増えたことなどで、2020年9月運用開始を2021年4月運用開始に遅らせました。家賃を下げて、利用開始の3ヶ月を無料にし、9月から、9テナントの内、4テナントの家賃が入る状況になりました。あと1テナントは自身で運営する法人のギャラリー 4月から入居しています。不動産向けの補助制度があれば大変助かります。直接ビルオーナーである必要はありませんが、「ギャラリー 運営を考えている事業者への資金援助」あれば、ギャラリー 使用料が下がり、アーティストの活動が増えるかと思えます。

【個】 公共の文化芸術施設へのコロナの経済的打撃が心配だが、夢洲への公金の使用などはあるのに、文化芸術拠点に対して、の行政の助けが足りていないと感じる。

【団】 演奏会の開催については、定員の半分、20分ごとの換気、マスク着用会話禁止、体温測定と手指消毒等行っているがデルタ株が増えてきて危険を感じている。開催すれば一定数の人が集まるので、開催せずに休館を続ければいいのだろうが、毎月の家賃は発生し続けるので、それも難しい。家賃の半分でも補助してもらえたら継続は可能かもしれないが、このままではもう限界が近づいている。近隣のサロンは次々に閉館している。

【団】 劇場運営者は主催公演以外はJ-LODの申請も出来ず、大規模施設の協力金も対象外とされ、一切の支援がありません。助けて下さい。

現在の支援への要望 | 施設 [4/5]

【団】大阪文化創出事業について。熱心に芸術活動している人はたくさんいますが、活動が収入に反映しないことが多くあります。支援要件として収入（確定申告など）を外していただければ、活動ができる作家が多くいるかと思います。また、資金不足で個展や企画ができなくて、グループ展参加という方法で、作家活動をしている人も多くいます。4年間で2回以上の活動という項目があるかと思いますが、50回以上グループ展に参加していてもその要件にあたらないようです。活動している人への支援は大切にしながら、その活動の内容は幅広く捉えて頂きたいと願っています。

【団】ホールを持つものにも、企画制作をしたら補助金が頂けると助かる。

【団】劇場主催公演の場合でも補助金の設定があればありがたい。劇場主催とはいえ経費は少なからずかかっています。感染対策費（PCR検査等100名以上のカンパニーで数週間の公演で週一回ピッチで行っているほか）が莫大になり、公演の収支が成り立たなく、このまま続くとかなり厳しい。

【団】コロナ禍における行政への自粛や無観客要請等への協力による会場側の損失は計り知れません。主催者だけでなく施設側の救済策を早急に検討・実行していただきたい

【団】芸術創出事業に関してですが。副業で活動されている方が多く実際は申請できない方がほとんどです。こういったことに苦手な方が多い。また、施設登録をするから、展示場の宣伝になって・・・などのメリットは施設にはありません。半年前などでは、予約がすでに入っているか、もう入らないかのどちらかでしょう。会場経営も厳しいです。

【団】大阪文化芸術創出事業（活動支援）補助金に申請しましたが、予算が終了したという理由で不採択になりました。もう少し予算枠が広がらないでしょうか？

現在の支援への要望 | 施設 [5/5]

【団】「大阪文化芸術創出事業（活動支援）補助金」は助かりますが、全体予算から見ると一部なので更なる拡充を希望します。

【団】会場費支援制度 引き続きニーズが高いと思われます。コロナ禍での支援策としては最も有難い制度ですので、申込状況に応じて予算拡張や、期間延長などもお願い出来れば幸いです。（短期間では集客が戻ってこないと想定されます。）上記とも絡みますが、大阪城ホール、インテックスなど制度適用外の大型会場での公演実施時の、収容人数に応じた減免も希望します。フルキャパでの公演実施はまだまだ時間がかかりますので、1/2なら半額、2/3、3/4などの段階的な減免があると、勝手ながら大変有難いです。

現在の支援への要望 | 周知 [1/2]

【個】助成金や補助金について、市区町村役所でコーナーを設けるなどして、ネット環境からだけではなく、情報を直に得られるようにしていただきたい。

【個】申請した結果をもう少し早く教えてほしい7月に申請して9月に演奏会を予定して、申請結果が分かるのが8月末ではどうやって集客できるというのですか？

【個】支援策は有難いのですが、実施期間が短く現実のスケジュール的に実施できなかつたり、条件が厳しいものが多いです。準備期間を含みますので、よーいドン！でやってくださいと言われても厳しいです。

【個】支援があることをもっと告知してほしい

【個】今回大阪在住の会員にこの支援策があることを教えていただきました。会の事務局長の住所地が会の所在地となっているため、情報が取りにくいのです。昨年も同様な援助があったのかと読み取りました。もし会場費援助が頂けると分かっていたら、もう少し利便性のある会場を得る事ができたかなと考えています。

【個】今は助成金情報などを仲間内で交換しあっているが、届いていない人がいると思う。助成金にしろ、感染予防ガイドラインなどの知識にしろ、必要な情報が必要な人に届くようにしてほしい。

【個】毎年5月に開催しておりましたイベントの今年の開催が例年通り行えるものか、行ってもよいものなのか結果が出ず、5月の開催は断念致しました。今年は11月に開催予定なのですが、給付金等の支援策があるのであればスピーディーにお知らせ、ご対応いただけましたら幸いです。

現在の支援への要望 | 周知 [2/2]

【団】 演劇の公演は準備期間の長さの問題から支援を望んでいても助成の募集期間と合わず断念することが多いです。通常なら致し方ないとしても、現在のような非常の状況の場合はもう少し柔軟な対応をして頂けるとありがたいです。

【団】 支援策についてももう少し広報してほしい。情報を得るのが直前でしたので準備がギリギリでした。

【団】 補助金や給付金の情報をメールで頂けると助かる。

【団】 助成金を実施されている広報力があがると素晴らしいと思います。

【団】 せめて時間に追われない程度に、申請モノの期間的な猶予をしっかりと設けてもらいたいです。

【団】 各監督省庁・自治体で支援策を打たれておりますが、それらを網羅した情報が欲しい。

現在の支援への要望 | 具体的提案 [1/6]

【個】 飲食だけでなくエンタメ業界への支援金をしっかり出すべきだ。どれだけのマイナスがあるのか想像は容易なはずだ。

【個】 舞台上での表現だけに対して映像関係なく、中止の支援を行ってほしい。

【個】 団体に対しての支援はあるが、個人での支援策をしてほしい。

【個】 公演のたびにPCR検査をしないといけません。陽性による公演中止に対する補填は個人的な考えを申し上げるなら陽性が出たことは劇団の責任も少なからず存在すると思うので補填を求めるべきかどうかはその損害の規模によると思いますが、私の劇団のようにアマチュアで小規模な劇団は公演活動で陽性が出ないようにするための準備に費用がかかりすぎます。そのため、その費用の補填を求めたいです。

【個】 今後、ただ、一時的なものではなく、対面とオンラインのミックスした企画などが増えるような補助金やコンペディションなどの企画・実施をお願いしたく存じ上げます。

【個】 中止になったり赤字でも補填してもらえそうな取り組みを希望する。

【個】 中止または延期にせざるを得ない公演、それにかかわる練習等にかかった費用の補填を考えて欲しい。合唱団の指導やボイストレーナーとしての活動はこの一年半ほぼ出来ず、収入も激減しているのに、税金、年金だけは通常通り支払うのは困難な状況。どうにかして欲しい。生活が成り立たない。

現在の支援への要望 | 具体的提案 [2/6]

【個】今までグッズやCDで出た利益を、次の音源制作や広告費、動画撮影費に回していました。しかし利益を出せる現場が減り、観客が減り、その結果売り上げも落ちてしまい、作品の展開スピードがかなり遅くなってしまっています。より良い作品を届けていきたい、作品制作の補助をいただくと助かります。

【個】ライブハウスを使って主催する第三者の主催事務所にも支援金や助成金がほしい

【個】9月のイベントは8月17日に緊急事態宣言が9/12まで延長を受けて中止を決定しました。緊急事態宣言により会社の指導によりキャストが県外から出れないこと。近親者の感染により濃厚接触者になった者などがおり、このまま公演することは難しいと判断しました。この判断で莫大な損失の負担を強いられれています。公演中止という苦渋の決断を行った団体に対して、せめて負担額の保証を充実していただくと助かります。AFFのビデオ作成及び配信は中止した公演に対してどういう意図があるのか分かりません。

【個】コロナ禍によって発表できない公演に対し、それまでにかかった費用を補填して欲しい。

【個】お役所仕事なら、お役所仕事なりの立ち振る舞いをしてほしい。変に期待させるような支援で応募数増やしてもお互い捌ききれず、文化庁と一緒にキャンセル事業を生むだけだと思う。感染症の機材の無料貸出の支援など、若手や資金力の無い表現者にも平等に機会が与えられる環境整備だけでいい。間口を広げて大阪市が期待していない表現者にまでハードル下げてとかはいらないと個人的に思う。

【個】法人でなくても個人でも申請できる助成案件、支援策を増やしてほしい。

【個】公演前にスタッフのPCR検査が受けれる制度（要予約、事前に回数を指定）や、検査のみの病院、クリニックの紹介、費用の負担などもあればいいなと思います。「文化芸術活動に必要な衛生物資や備品等の支援」の中で、送風機や移動整理用のパイロンや柵のレンタル、指定業者の紹介（割引）など、所持するのは大変だけどあった方がいいものの支援や紹介をしてほしいです。

現在の支援への要望 | 具体的提案 [3/6]

【個】コロナの影響で有観客での活動を難しい状況が1年以上続き、文化芸術関係者の経済力、気力などが奪われ厳しい状況にある中で、有観客を前提とした公演や展示などへの助成金等があっても、中止になるリスクを負ってまで新規の企画を立ち上げて申請・実施するのは苦しいし、感染拡大防止にも逆行するのではないかと思ってしまう。今般、日本芸術文化振興会の文化芸術復興創造基金で、コロナの影響による赤字補填など文化芸術団体の継続を支援する助成が始まるようだが、大阪市でも同様の、損失補填や公演・展示などを伴わない制作活動やリサーチなども広く対象とする助成・補助など、文化芸術関係者が活動を継続するための支援を検討・実施していただきたい。

【個】文化庁のARTS for the future!は「GO to会場」のようなたてつけになっており、第五波の感染拡大の実相にそぐわないと感じる。今後より一層、コロナを楽観視するか、重く見るか、人によってそれぞれ考え方が違ってくると思う。それぞれ、積極的に上演などに取り組むアーティストだけでなく、コロナの危険性を重視しての企画や、あえて休業を選ぶアーティストにも支援されるようなたてつけにしてほしい。それぞれの選択に対して、補助があっていいのではないか。医療崩壊している状態で、イベントを開催せざるを得ない状況というのは、異様ではないか。

【団】現時点でライブ、トーク、DJなどの無観客配信を行っておりますが、マネタイズが困難で出演者もノーギャラ、当方も収益無しといった有様です。本来飲食店であり、イベントの規模もプレイガイド等を利用するようなものではないので、公演中止の補填というのはなかなか難しいですが、なんらかの支援策があると非常に嬉しいです。

【団】小劇場の劇団です。今公演することは高いリスクを伴い、年単位で計画して動いた先で中止というケースに何度もなってしまいました。高リスクではありますが、やはり演劇を仕事とし、文化芸術の一つとして社会を豊かにするものとして、何度でも公演を計画して発信し続ける努力をしています。なので、1：運営を継続するための支援 2：新規事業&公演中止時への支援 の順番で充実するととても助かります。文化庁の支援がなければ今活動できてないので、より多く支援があると助かります。

現在の支援への要望 | 具体的提案 [4/6]

【団】公演に対しての助成はもちろんです、それがやむなく中止になった場合のキャンセル料を補償して欲しいです。政府都合でなくとも、座組から陽性者が出た場合も含めて。不安が先に立ち、公演への意欲がなかなか高まりません。

【団】集会所など地域の施設から演劇等稽古場所が確保できず区民センターなど時短など利用制限に即した新型コロナウイルス感染予防対策を行い活動しています。これら公演だけでなく表現創作に必要な準備など、資質向上の為の稽古など活動や市民への活動理解に向けた啓発活動など資金的援助がいただけることで活動の再活性化につなげていただきたいと思います

【団】公演の発表寸前まで進んで中止、無観客上演、映像配信のみになった場合の補助を早く実施して欲しい。

【団】現状、一番大きな不安としてあるのが、いつ公演事業が延期・中止になってもおかしくない状況の中で大きな負債を背負ってしまう可能性を常に抱えながら進めなければならないことです。負債を抱えてしまうと再起不能となるため、事業を興す以前に意欲が削られ疲弊してしまう事業者は決して少なくないだろうと考えております。もしキャンセル料支援(人件費も含む)等が行われれば、事業者はよりいっそう意欲を保ちつつ質の高い作品を創作することができ、万が一の場合には安全最優先で延期、中止の決定を速やかに行うことができます。かつキャスト、スタッフ、関係者の再起も促し、引き続き活動を継続することができるため、市民へさらなる文化芸術作品の提供が可能となると考えております。以上の内容につきまして、ご検討いただければ幸いです。

【団】新規事業者が申請できる色々な支援があれば有難いです。

【団】昨年度以上に、先の見通しが立てられない状況になっているため、事業や活動への支援策・補助金も必要ですが、固定費にも活用できる支援策も必要だと感じています。

現在の支援への要望 | 具体的提案 [5/6]

【団】クラシック音楽を主に提供している「コンサートホール」とロック、ポップス、ジャズなどのライブと飲食を提供している「ライブハウス」では同じように音楽を提供していても運営方法や「文化」が大きく異なります。公的な支援についても「劇場、コンサートホール、ライブハウス」を一括りにせず、それぞれに応じて適切な支援をお願いしたいと思います。

【団】自治体から損失補償はいただいたのですが、自主事業が開催できなかつたり、開催を中止した際に生じた損失もあります。こういった損失補償にも応じていただければと有難いのですが。

【団】東京都のように緊急事態宣言中の補填

【団】これまでも公演の中止や延期が多くあり業務が著しく減少はしてはしましたが、少しずつ戻ってきているかと思われた中で、再度急速な感染拡大などで緊急事態宣言や蔓延防止などが発出され、中々先を見通せない状況が続いており、事業を継続していく上で大変難しい局面を迎えているかと思えます。7～9月は特に大規模イベントが多く事業収入も多い時期ですが、相次いで中止になっており、舞台や照明の業務の多くがキャンセルとなっております。事業者が音楽文化の継続を望み、活動しても公演やイベントを直前でキャンセルせざる負えない事も多く、中止に対する損失が重くのしかかっているのが現状です。開催に対する補助だけでなく、緊急事態宣言や蔓延防止などの宣言下での中止による補填の制度が必要かと考えます。

【団】中止、延期要請に協力した際の直接給付をお願いしたいです。その際に推奨される「JLOD2」の申請はとても煩雑であり、労力的に中規模から大規模公演でしか申請出来ません。

【団】日本の文化関連の支援策は、事業をしないともらえないシステムになっている。運営に対する支援もして欲しい。

現在の支援への要望 | 具体的提案 [6/6]

【団】公演実施時の感染症対策費の補助 こちらも当面の間、感染症対策は継続となりますので、感染症に強い会場作り＝安心して来場いただける為の対策費を希望します。 ・会場自体（ライブハウス以外の市内主要民間ホールの常設備品助成） ・会場を使用する主催者（消耗品などの実費助成） ・一定基準を満たした会場、プロモーターの公表、PRなど（ゴールドステッカー的な）

集客を取り戻すための施策 コンサートだけでなく、全ての集客を伴う公演が動員に苦しんでいますので、動員を取り戻す＝チケットが多く売れる事が我々には何よりの支援となります。 ・官民での文化芸術公演を実施する為の支援拡張 ・在阪メディアによる文化芸術への参加を促すムード作り、広報PR活動 ・GoToのようなユーザー支援 消費者も収入減や収入不安がありますので、チケット購入時の顧客負担を軽減、例えばPG手数料分が割り引かれる、チケット購入額がポイントになる。参加した公演数に応じて何らかの特典が得られるなど。キャパを制限されているので、どうしてもチケット代が値上がりしており、それで買い控えも起きているのも事実です。 ・ライブラインを支える方、業種に対して何らかの癒しの提供（社会貢献的な公演の実施）

アーツカウンシル的な助成制度の拡張 現状はクラシック、伝統芸能など営利メインではない公演への助成をロック、ポップス公演にもジャンル拡張。または、応用出来ないか。 ・会場費以外の経費（市内の業者の利用に限り＝ホテル、タクシー、ケータリング等）を補助していただくような事が出来ないでしょうか。 ・今後の府市事業への協力（キャストイング、会議参加など）

現在の支援への要望 | 長期的な支援 [1/3]

【個】昨年度、今年度の助成金額の増加と100%助成にほんとうに助けられました。それがなければ、（コロナによる）経済的な理由で公演中止を考えたと思います。迅速に的確なサポートをしていただき感謝しています。コロナの影響が小さくなるまで、この施策をしばらく続けていただければととてもありがたいです。

【個】今も支援していただいているものがあるので、ありがたいです、今後も変わらずに支援していただければ、非常にありがたいです、

【個】長期的に裾野広く包括支援していただきたい。

【個】文化芸術は準備自体も1年～2年必要なことが多く、1年前から会場施設予約なども始まるため、複数年にわたり支援していただけるような補助金制度があると、公演の延期や事業再開への足掛かりになると思います。公的な補助では複数年に及ぶものは難しいかもしれませんが、最近は施設自体も中止や延期によるキャンセル費用が免除されないことが多く、コロナによる公演キャンセルに対する補償が約束されていると、今後の事業計画もしやすいと考えています。キャンセルで入場料収入等が得られないままに支出のみがかさんでしまうことを考えると、会場予約等も出来ないままに事業計画を立てることが難しい場合が多いです。

【個】大阪市芸術活動振興事業助成金の拡充施策を続けてほしい。

【個】今後とも宜しくお願いします

現在の支援への要望 | 長期的な支援 [2/3]

【個】コロナ禍収束の見通しが立たない現状においては、支援は長期的に継続されるものであるべきです。また、申請の方法や基準も、より多くの方々に適用されるようなものを希望します。これまでの地震災害時に見られるように、人にとってまず大切なのは衣食住ですが、それが確保されたなら、次は芸術やスポーツなどの文化が大切な役割を果たし、人々を活気付けていきます。それが衰退してしまうと、長期的には集団生活における善悪の判断基準が崩れ、徐々に殺伐とした世の中へ移行する可能性が高いように思いますので、是非未来の社会を見据えた長期的な支援をお願いしたいと考えます。

【個】大阪芸術活動助成金と大阪文化芸術創出事業補助金は今後も多くの方が必要とされると思うので継続、拡充して頂きたいです。

【個】コロナの状況が変動する故に、1度イベントをとりあえず企画告知して、直前でいざとなれば中止しようとなると各方面沢山迷惑もかかるので、企画自体をなかなか立てて打てません。表に立つ人が動かなければ音楽だと裏方製作やサポートする人も失う。企画したとて、客足は戻りきらない。その中で活動自体を辞めて行く人もいる。損失補うものより、何かオンラインなど発信する事を条件に、一定の期間安定したまとまった補助金があれば生活面でも少しは落ち着き前向きに活動を長くできるかと思えます

【個】絶望的な日々が続いております 皆様にも勇気や希望を持って日々の経済活動に取り組んで頂く為にも 芸術文化活動のさらなるご支援の程 お願い致します

【個】大阪府並びに大阪市には文化芸術に対する補助や支援をいただきとても助けられております。しかしながらイベント等の活動がいまだに先の見えない状態で、今の状況では廃業の可能性もなきにしもあらず。直接的なさらなる手厚い支援をお願いいたします。

【個】絵画制作、発表をしていますが、コロナ前から観客は半分に減り、収入も減りました。展示に必要な経費の支援を引き続きお願いしたいです。

現在の支援への要望 | 長期的な支援 [3/3]

【個】感染症に対する、危機感の喪失が何もかも中途な状況で進んでいる。伝染病は直ぐには撲滅できないことは歴史が証明しているので、その場限りの支援や対策ではなく、長期展望に立ったご支援をお願いできればと思います。かって言ってすみません。

【個】コロナが昨年よりも悪化しているため、来年度もその可能性が充分ある。貸付金でもよいので、この数年を乗り越える、切り開くことを見込んだ支援があれば頼もしい。

【個】昨年度の文化庁継続支援事業のような、アフターコロナに向けた準備研鑽の事業への補助を確保することが、最小限のリスクと最小限の社会的損失のもと、文化的活動の裾屋を維持するためには必要だと感じる。

【団】長期的に広く行き渡る助成による活動支援を希望します。

【団】数か月後の状況も見えないことから、依頼公演の獲得もままならず、今後の収益基盤の構築が難しい状況が続いています。会場の確保に関しても、キャンセルの場合は費用免除されないことも増えており、コロナによるキャンセル等の場合に費用を確保しておけるような、ある程度長期的な補助制度があるとありがたいです。

【団】この4~5年、大阪で舞台作品を見ていません。大阪で良い作品を見られるというイメージが全く無いので、一時的な支援ではなく、長期的な目線での環境作りをしてほしい。

【団】クリエイターの皆さんに地道で息の長い支援をしてあげてください。

現在の支援への要望 | 審査 [1/1]

【個】AFFの一次は、NPOや法人として、演劇祭や公共性のあるワークショップを開催しようとして企画していた団体が不採択となった事例を知人から聞いている。採択基準があいまい(だと感じられる)なように感じられた。

【個】助成金。補助を受けて本当に助かっている団体と、申請し勝ちになっている団体と、若干のアンフェアさが目立ちます。申請数も大変多いと思いますが審査基準をもう少し踏み込んで貰えたら有り難いです

【個】補助金などについて、団体や報道で指摘されているとおり、手続きが煩雑であることや、審査の遅延、不備ループなどの不公平が問題になった。今後はそういうことが起こらない、公正で簡潔な手続きにしてほしい。

【個】「大阪市芸術活動振興事業助成金」の特別枠でプレゼンを求めるのは、怠慢に映る。ほかの自治体や国の助成制度で、そのようなものが求められることはない。申請書類に書かれた内容（申請者の実績も含む）だけからすべてを判断できる審査委員を任命するのが、本筋では？文化芸術従事者（特に助成を必要とする人）のほとんどは、フルタイムで文化芸術活動に集中する必要があるのに加えて、経済的にはパートタイムの仕事もしないといけない状況に置かれており、日中にプレゼンする時間を捻出すること自体に困難があることへの理解を。

現在の支援への要望 | 生活支援 [1/3]

【個】 昨年からキャンセルが相次ぎ収入が大幅に減少し、コロナ収束もいつになるかわからず、この先の見通しが立たないことに不安を感じています。収入面での支援、発表の場を作って欲しいです。

【個】 補助金ではなく、給付金で助成してほしい。

【個】 生の演芸の魅力は、インターネット配信では表現できないと感じる。配信等に対応するスタッフを雇う資金もなく、配信視聴者数を増やすのも難しい。そのため、生の舞台を安全に見てもらえる時が来るまでは、舞台や仕事に対しての補助ではなく、芸人の生活費や自身の技能向上のための稽古等に対する補助が必要と考えます。

【個】 演出家、パフォーマー、劇団主宰です。とにかく生活の支援が欲しいです。仕事がハナから少なく、あっても延期や中止になっていきます。文化芸術は消えないと思いますが、文化芸術に携わる人は消えます。一旦人が消えたら戻ってくるのにとても時間を要し、文化的に遅れた場所になってしまうと思います。今、国単位でそれが起こっていると思います。万博を控えた大阪は文化芸術を逆に盛り上げるべきだと思います。

【個】 支援金や助成金など、申請後に採択まで時間を要したり、採択後も事業費を立て替え、事業終了後に振込みなど、すぐに活動を継続できるような内容ではないものが多すぎて、金銭面や精神面でも自己負担が大きく支援になっていないようなものも多く見られる。前払いを可能にしたり、自己負担金が少なく事業を継続できるようなシステムがどの業種、年代にとっても必要な段階にきていると思う。特に給料制ではない個人事業主は、一つ発表の機会が失われるだけで、かなりの損害になるため、発表の損失のみ補填するだけでなく、生活費などの面も視野にいった融通の効く助成金をもっと設立されてほしい。

現在の支援への要望 | 生活支援 [2/3]

【個】お金を使うことへの補助や助成だけでなく、収入減になったことによる給付金（生活支援としての給付で、経費支出の補填ではない支援）を充実させてほしい。公演助成はととてもありがたいが、コロナ禍では感染拡大のリスクがどうしても増えてしまうため、ステイホームを推進できる給付金を少額で多くの方に渡せるような施策があると良いと思う。40万円を1事業者に助成するより、5万円を8事業者に給付するなど。

【個】事業内容や事業自体の有無に関係なく、少額でも一定額を多くの人に交付するシステムが必要だと考えています。そうしないと、長期的に見た際に文化芸術活動に従事する人は減少すると思います。

【個】支援に関してすべての従事者に割り当てられるような（飲食業のような）補助金や助成金を希望します。

【個】収入が例年の50%以上減少していた場合に受けることができる支援金等が多いが、少し50%を割っていたために受けることが出来ないことがあったので、出来れば基準にバリエーションを持たせて欲しい。

【個】現状では赤字が続き、とても生活が維持できません。仕事量は増えつつありますが、相変わらず直前の中止・延期・キャンセルが続々とあり、早くから埋まったスケジュールが直前で空いたままになることもしばしばです。月次支援金を申請してはいますが、条件が厳しくギリギリでクリアできないことがあります。それらを補填する支援を希望します。また持続化給付金や、定額給付金のような大口の支援がないと、今の状態では1年持ちそうにありません。

【個】コロナ禍でも(にも拘らず)何らかの活動・公演を行う前提のプログラムや従事する人員への補助・助成だけでは不足に感じます。現在、求められているのは凡ゆる表現者の生活維持の為の補助・助成ではないかと思います。経費だけの補助・助成では生活は逼迫します。

現在の支援への要望 | 生活支援 [3/3]

【個】コロナ流行初期にライブハウス・劇場叩きがみられたが、国の姿勢にみられるような「芸術は不要不急」という気分、「感染も、療養も、困窮も自助自己責任」という雰囲気世の中・身近にも蔓延してきていると感じ、つらいものがある。積極的な活動への助成以前に、医療崩壊の現状では、単に活動がままならないだけでなく、経済的にも苦しいし、心身の健康も脅かされている。海外の事例にあるような、休業補償や一律給付金のような経済的支援を行ってほしい。

【個】飲食店同様、文化芸術においての給付金を切に願います。

【個】文化芸術活動を継続していく上でコロナ禍による需要の現象、観客の減少による収入低下に対する金銭的補填、補助の金銭的支援をしてほしい。

【団】歌系団体は感染リスクが非常に高いが問い合わせしてみたが「飲食店の営業許可証がないと」とのことイベント開催や演奏活動自体自粛せざるを得ないので持続化給付金、家賃補助金等の支援金が至急必要、コロナ禍に入って以来貯金を切り崩し何とか現在に至っていますが、私だけではないことと思いますが個人事業者はそろそろ精神的にも経済的にも限界に。

【団】感染収束の見込みがたたないため、イベント実施を前提としない形での支援を希望します。文化芸術に関わらず、対象を指定する補助金は必要などところに行き届かないため、一律の給付金を給付し、過剰分は法人税で回収するという形が望ましいです。

現在の支援への要望 | その他の要望 [1/1]

【個】舞台に立つ者として、感染症対策やPCR検査を続けてきました。今後も続けていくつもりですが、やはり予算が持たない部分もあります。多くは望みません。わずかでも支援して頂けると救われます。

【個】支援金を豊かに。

【個】コミュニケーションによって生まれる交流からの、自己発見、他者認識、想像、創造力こそが芸術文化の根源です。生命の存在のエネルギーを活性する文化芸術活動、しかし人流の規制の必要を尊重し観客規制の公演を重ねて赤字が続く現状に限界が来ています。行政の豊かな支援、様々な人間にも対応出来る申請方法を切に望みます。

【団】支援策についての書類ですが、できるだけ提出しやすい、書きやすい書式だとありがたいです。

【団】新型コロナウイルスによる経済的損失、信頼の低下、可能性の縮小は飲食店のみならず、多くの分野へ広がっています。支援の対象/範囲の拡充を望んでやみません。

知りたい/知らない | 申請の手続き [1/1]

【個】補助金の制度があることは分かっているにもかかわらず申請の機会を逃してしまったり、そもそもその施策を知らないままに対象期間が終わってしまいました。記入例や書き方を説明する動画があれば助かります！

【個】フォトグラファーです。文化芸術という分野においては音楽ライブの撮影をしております。やはり、中止・延期を経験しました。撮影はライブだけではないです。結婚式の撮影(撮影会社からの委託)もしております。結婚式がなかったり、件数の減少で、お仕事がないう状態です。上記で記入した数字、金額はあくまで一部で、結婚式撮影の分の収入がゼロの状態です。委託でお仕事をもらってる人への補償・支援等あれば教えてほしいです。

【個】具体的に、困ってはいるが、どの支援が当てはまるのかわからない

【個】色々の申請を活用したいと思いますが、煩雑で時間がかかり、間に合わない。ネットが不得意なので大変困っている。

【団】いろいろな助成金があることは知っているのですが、手続きが難しくわからないことが多く、書類づくりにすべての時間をもっていられ、本来の業務に集中できません。もっと簡易に申請出来るようにしてほしいですね。本当にわかりづらい。

知りたい/知らない | 現場を知るべき [1/1]

【個】発表は唐突で、終了が早すぎる。演劇に従事しているが、現場の意見と、実情を知る努力を。

【個】音楽、演劇、美術など芸術文化に拘る仕事をしている者は殆どがこの団体にも所属せずフリーでやっています。そこを踏まえての支援、申請の形態にして頂きたいです。国はもちろん自治体もこの分野の仕事の仕方を理解していない（現場を知らない）中での政策、支援方法のような気がしてなりません。現場を知った（大学教授や団体役員など肩書き関係なく）アドバイザーを入れて実情に沿った支援策をお願いしたいと切に願います。

【個】支援に関して、個人に対してのものが少なく、また販売する作品に関しての支援はNGとなるものが多く。特に文化庁がらみなどはその方向。現実味がない。主催者兼出展者の場合も多いので、出演費や製作費などを支援頂かないとチャレンジができない。

【団】文化庁の支援は本当にありがたいが、年度ごとに対象の基準を変えるのはやめて欲しい。去年は取組みそのものに対する支援だったが、今年のARTS for the future！はプロの人件費補填なので、インディペンデントは落とされる。どこが未来の為なのか疑問である。

知りたい/知らない | その他 [1/1]

【個】20周年の節目で記念誌をまとめている。別途、オンラインでの練習やイベント、主事業とは違った企画の運営などを行っているが、主事業での求心力を失っており、会員のモチベーション維持に工夫を重ねている。ただ、自主企画等の広報を行っても、自団体の広報力に限りがあり、集客に繋がらない。効果的な広報の方法を指南してほしい。

【団】動画や配信、視聴者確保のための専門家からの支援（できれば無償）があれば活用したい。オンラインでのアート発信に関してとりまとめてくれるサイト（多くの視聴者がアクセスする所）があれば教えてほしい。

新しい対応・仕組みの必要性 | 開催条件 [1/2]

【個】コロナ予防接種を受けた方はイベント無条件にするとか、緊急事態宣言は期間で決めるのではなく、一定の人数を下回れば解除する、そのためならロックダウンもし、その補償は1人当たり月に30万円以上撤退するとか、やり方はあると思います。誰が悪いなんてありませんが、ズルズル今の現状が皆さん困っていると思います。イベント業界は一番最初になくなり、一番最後に復活するものだと思いますので、手厚い補償をお願いしたいです。

【個】閉店中のライブハウスなどでまた活動ができるように情報発信や安全性の拡散などの支援にお力添えいただけると嬉しいです。

【個】こちらのアンケートが活用され文化芸術の発表がただちに行えるような発表を期待しております。こういった催しは安全です、としっかりメディア等で伝えて欲しいです。練習場も演奏発表会場も使えるのに本番を中止にせざるえない世情や空気感です。声を発しない、唾液なども飛ばさないような状況下の演奏等はいいと聞いていますしもっと公に安全大丈夫ですと伝えて貰いたいです。

【個】専門家や医療現場の声を無視しての五輪強行など、政治の振る舞いに、創作現場は、1年半、協力しながら振り回されている。行政の対応が後手後手であるので「緊急事態宣言発出」や「休業要請」など、行政の基準に沿ってイベントの中止、延期、無観客を判断するのは手遅れで、感染拡大に資してしまう（観客・関係者を危険にさらしてしまう）のではないかと不安だ。変異株や、市中の感染拡大状況に合わせたガイドライン、事例集を作してほしい。

【個】ワクチン接種率が60%を超えたイギリスなどの欧米諸国では音楽イベント、フェスティバルが再開され、コロナ以前に近い状態までの盛り上がりを見せています。日本の今の現状は自粛するのはしょうがないと思いますが、どこで線を引いて元の状態に戻すかというのは人々の意識に関わっているかと思っています。国や役所の方々にはしかるべき時がきた時に、「他人の批判を気にせず人々がまた集っていいんだ」「ワクチンを打ったからライブに参加して楽しんでいいんだ」と言う意識になるような施策をお願いしたいと思います。逆にいえばそれがなければ日本の文化芸術活動は死ぬとも思っています。もちろん支援金などありがたいし必要なのですが、どう人々の意識がコロナ前の状態に戻るかと言うのが大事かと思っています。欧米諸国はできています。日本にもできないことではないと思います。

新しい対応・仕組みの必要性 | 開催条件 [2/2]

【団】 新型株の出現により新型コロナウイルス感染症の収束と拡大が繰り返される状態で、会場の使用可否、使用人数の制限も不確定で、数か月先に実施するイベントの企画が難しくなっている。今後はワクチン接種者については人数制限の対象にしないなど、様々な事業を再開していくにあたっての指針を決めてもらいたい。

【団】 4月に公演する予定でしたが、公演中止となりました。公演中止になっても、大阪府芸術文化振興補助金でキャンセル料などを助成していただけることで大変助かっております。演劇活動を続けていく上で、感染対策をどのようにしたらいいのかのガイドラインがコロナ禍当初より更新されておらず、団体独自の感染対策を試行錯誤しながら活動を続けている状態です。デルタ株のまん延を受けての感染者も増加しております。今必要な感染対策の正しい情報が知れるようにガイドラインの制定などをお願いしたいです。

新しい対応・仕組みの必要性 | 感染対策 [1/1]

【個】どのような感染対策を取るべきか、感染拡大状況や公演規模、参加者の気持ちによって取り組み方が異なり、自分たちで決断するのが非常に難しい。何かあった時に、批判されるのが怖い。間に入って、1番適切な対策を取れるよう、または周囲に伝えることの出来る専門スタッフが欲しい。

【個】多くの演者が共演する公演、活動拠点が別々の地域のものが集まる公演などの前に抗原検査、PCR検査を自費で行っている。自由に気軽に使える抗原検査のキットを無料配布してほしい。家族の分まであればなおありがたい。

【個】公演する際に必ず楽屋に何人かの人がいるので、公演前にPCR検査を無料で受診できると助かります。

【団】自宅兼事務所のため、子供からの感染という心配もある。文化芸術もそうだが、教育の現場での対策にもっと支援をしてほしい。

【団】稽古や公演にあたってのコロナ対策は行っておりますが、関係者全員のPCR検査の実施が人数の多さから経費として非常に重たい上、検査を本番の2週間前に行ったとしても、今年5月の公演では本番前日に陽性者が出たため、中止に。本番直前であったため、関係者全員、会場への支払いはほぼ満額で、リスクは覚悟して公演を打っておりますが、非常に厳しいです。PCR検査が安価であれば小まめに確認もでき、対策を考えていけるのですが。

【団】感染予防策にかかる手間（消毒や、準備）が負担になっている。施設向けに感染予防に関わるツールの配布や提案をして欲しい。ホールなど広い場所での消毒は、園芸用品の電動噴霧器を使用し人の負担を減らしている。

新しい対応・仕組みの必要性 | 提案 [1/4]

【個】現在の状況で以前の様に人を集める事業実施に躊躇しています。また以前の様な事業の進め方がこんなんでも上手く回らない事業もありました。個人的に文化事業に対し消極的になっており、大阪の文化芸術の盛り下がりを感じます。事業を再開するにあたり自由に予算配分や実施時期を決める仕組み、またアーツカウンシルから大阪の文化事業実施者に対してのヒアリング、その結果を公表し事業実施者が間接的にのおおのの状況を共有し学べる仕組みがあれば新たな共同のきっかけやモチベーションキープに繋がるように感じます。

【個】時短により、公演がスケジュール通りできません。すでにチケット発売されているものなどに関して、柔軟な対応をしてほしいです。観客の鑑賞機会を取り戻す取り組みをお願いしたいです。コロナが落ち着いても、これまでと同じ数程度、公演数が復活するとは思えません。(活動をやめていく者も多く、また今、新しくはじめることが困難なため、この状況では演劇をやろうという人材が育たないです)また観客も離れてしまってるだろうと思います。困難な状況でも持続的に活動できるような環境や取り組みをお願いしたいです。

【個】営業時間の短縮は仕方ないと思うのでライブハウスで活動できない分オンラインでも自分をアピールできる動画制作のセミナーなど安価で受けられるオンライン講座開催希望です！

【個】資金調達がスムーズにできる仕組みを作って欲しいです。

【個】命の危機を感じる現在で創作発表することは非常にナンセンスであり、関わった人やその家族を感染危機に晒す無知の極みだと思う。そのため、創作発表者への支援ではなく、創作発表を行わない、控えているものへの支援の方が、未来に対する支援となり、かつ、感染抑止ともなる。

【個】緊急事態宣言で度々お店や施設が閉まるので、公演をスケジュールを立てにくいです。また、公演をしても自粛でお客さまが来ないので公演活動のみで黒字にするのはとても難しいです。芸術に携わりたい若手が生き残るために、芸術関係でなくてもシフト制の雇用を創出してもらえると、まずはこの状況を乗り切るひとつの手段になると思います。

新しい対応・仕組みの必要性 | 提案 [2/4]

【個】飲食店に対する補償に対して、他の業種への補償等が圧倒的に手薄すぎる。客数制限やイベントの中止を求めるのに、それに関わる経費補償や生活支援等が無い。先行きの見えないコロナ禍において、貸付対応が多くイベント等に関しても収束後、直ぐには元に戻らないと思われるのだが、行政の対応がその場凌ぎ的で不安が残る。行政としても過去に例がなく先が見えないのは分かるが、先手先手の対応を望みます。

【個】オンラインイベントなども増加傾向にありますが、著作権使用料やその手続きが煩雑というか分かりづらい場合が多いです。著作権に対する考え方や手続き方法などがシンプルにわかるもの・研修イベントなどがあると、ありがたいです。

【個】文化庁なども含め新たな事業や企画に対して行われる支援ばかりを提供しています。しかし、そうした新たな企画が必然的に生じるのならともかく、不必要ではと思われるような企画をも無理に（支援のために）捻出するというような試みが行われているのではないのでしょうか。支援は、そういう企画や事業に対してではなく、人々が一時的に文化活動を停止しても生き延びられる、そのための準備に対して行われていくべきではないかという思いが拭いがたくあります。

【個】日々ストレスと不安が増している状況で、時々時間を設けられても制作することに向かうことが困難になっています。制作することが止まると精神衛生にとって厳しく感じています。様々な助成金があるようですが、申請に対ししっかりと書類を準備しなくてはならず、またせっかく申請がとれても、費目的に申請者自身や参加アーティストへの支払いではなく、例えば展覧会を開催するために助成金を獲得しても、コロナのためお客も来ない可能性もあり、結果売り上げもなく、それでも助成金を獲得しているため、英断で行うことになってもマイナスになりえます。助成のスキーム的に、ある程度仕方がないとは思いますが、「支援である」とは、あまり感じれていません。むしろ取れば状況によってはプレッシャーをかかえることにもなりえます。例えば5万円分の自由にしている資金補助などがあれば、状況は好転するのではないかと思います。そもそも助成の申請を書くには、慣れと技術、若手にとっては目に見えないフィルター（私は出してもダメだろう、のような）があり、現在のような精神的に不安な状況が続く中で、本当に支援が必要な方へ届かない可能性を感じています。

新しい対応・仕組みの必要性 | 提案 [3/4]

【個】コロナで、大規模な企画をしにくい状況なので、オンライン開催、もしくは、オンラインも含めたハイブリッドの開催をするにあたって、技術者や機材の協力、配信の発信の協力や共有するものがあれば、いいと思います。

【個】舞台芸術従事者ですが、やはりこの状況下では、これから舞台芸術を始めようとする新たな人材が生まれにくくなる期間が当分続く可能性が考えられ、業界として先細っていくことを懸念しています。これから舞台芸術を始めようとする人達や、まだキャリアの浅い若手支援策の必要性を感じています。

【個】問題を持ち込む・投げ込むことのできる窓口や、持ち込まれた問題への対応方法に関する知識や経験を蓄積・共有するネットワークがあるとよいのではないかと思います。ただ、その窓口やネットワークを実際に動かしていくためには、専門人材が必要であり、そこには適切かつ十分な予算措置が必要だと思います。

【個】問13-1と関連して、自分は見にゆけないが、他の人にフリーチケットを譲るような制度があれば利用したい。fringeが推進しているギフトチケットなど、劇団が利用しやすいシステムがあるが、関西ではどのくらい利用されているのだろうか。ギフトチケットがあれば、劇団は「前はよく来てくれたが最近ご無沙汰客」の消息確認にこころおきなく使うことができるのではないだろうか。

【個】公的な公演トライアルの機会の創出が欲しい。場所であったり、支援金であったり。

【個】所属している劇団の活動は計画通り継続しているが、個人の草の根的に活動していた分野は壊滅的で、再開は難しいと思われる。団体としての文化芸術活動は、ある一定の団体では可能だと思うが、市民活動としての分野は、再開が難しくなっていると感じる。小さなコミュニティが壊れることは成熟した社会にとっては大きな痛手なのではないかと思う。今まで目に留まりにくかったそのような市民活動にも光が当たるような支援があればうれしい。（活動そのものを振り返るようなアウトリーチやアーカイブでもいいかもしれない）

新しい対応・仕組みの必要性 | 提案 [4/4]

【団】観客や来場者が少なくなくなり採算的には厳しいが、それでも来場者にとっては会場が空いていて快適に鑑賞できる、運営側にとっても丁寧な対応ができることで満足度が上がっている部分がある。このよい部分を持続させることができる事業者自身による取り組みと行政からの支援（コロナ後も見据えた）。コロナで表面化した芸術にかかわる人たちの不安定な立場をこの機会に改善すること。

【団】文化芸術やクラシック音楽におけるリモート・オンラインを活用した取り組み事例の紹介など、他の文化芸術団体がどのような活動をしているのかが分かるようなデータベース、プラットフォームがあるといいかと思います。コロナ禍において、活動の場がオンラインに移行している分、より閉鎖的になり、各団体の情報が見えづらくなっているところもあると思います。また各団体の感染対策など、どんなことをされているのか、どんな備品を使用しているのかなども情報共有できると、それぞれの団体においてさらに有意義な公演実施が可能になると思います。

【団】事業のほとんどはデザイン制作などのため、直近で困っていることはないが、小規模でやっているものの案件の規模はそこそこなものもあるので、万が一自分や家族、スタッフがコロナに感染すれば、一瞬で会社が困難な状況になる不安はあります。スタッフのリモート勤務は以前から対応しており、これ以上することはないが、リモート会議などでzoomが盛んに使われるようになると思うので（現状はあまりない）ノウハウなどを学べる支援は欲しい。

【団】今後、新たに文化芸術活動を始める個人・団体が、ますますチャレンジしにくい状況ではないかと危惧する。助成金や補助金、クラウドファンディングなど申請する場合も、実績の個人や団体にはハードルが高い場合が多く、より手厚くサポートする人やネットワークが必要だと思う。ただし、臨時や年度といった期間限定ではなく恒久的に相談窓口が機関として存在すると、より大阪の複雑で多様な文化活動が生まれ続けられるのではないかと。スタートアップしてもなかなか事業を軌道にのせるには厳しいため、継続するための支援（専門スタッフによるアドバイスなど）があるとよいのではないかと。

新しい対応・仕組みの必要性 | パラレルキャリア [1/1]

【個】関西で活動している者はほとんどバイトなど他の仕事を持ちながらの活動。その他の仕事もコロナ禍において休止されている人も多い。飲食店など。また介護職の仕事を持っている者も多く、その関係で芸術活動を休止している者も多い。生活が保証され、芸術活動を止めずにいる為に継続支援の使いやすい、申請しやすい助成金があると助かるものが多いと思います。

【個】例えばWebデザインは「デザイン」だけ見ると芸術活動にあたるように見えるが、舞台やイベントをするわけではないのでこういう支援に全く該当しないことが多い。芸術とは何かを誰が決めているのか分からないが分類が難しい分野などに対する説明がもっと具体的だとありがたい。Webデザインだけでは経営がしんどくなりそうなので、陶芸作品を売ったり、中国輸入ビジネスに進出する計画を立てているがそういうミックス経済・経営のやり方も今後政府や市区町村で相談できる窓口があればいいなと思う。（仕事が複数にわたる人が増えていきそうなので、その考え方で支援を進めてもらえるとありがたい。例えばデザイナー兼農家です、という人にはどんな支援ができるのか。何の支援金が該当するのか、など）

【個】文化芸術に従事する人たちの技能をいかして、パラレルキャリアを実現するための支援。たとえば空間造形ができるアーティストはCAD技術を習得して建築士や設計士から図面引きを受注するなど。公的機関からの雇用創出もありがたいが、ここ数十年でクライアントワークを受けるときの様々な課題を感じたり、利害の調整に疲弊した気持ちもあるので、大きな社会の経済と共存する小さな社会の経済圏を作る基盤づくりを後押ししてほしい。

【団】芸術活動のみでは集客が難しいので、当団体に関係の深いアルゼンチンの食の文化を絡めて、イベントを企画し、集客アップを目論んでいます。

新しい対応・仕組みの必要性 | エリア [1/1]

【個】 大阪市の文化芸術活動支援は手厚い方だと思いますが、各自治体それぞれに支援の制限や条件等が細かく違うので大変です。京阪神や関西広域で統一した枠組みの支援があればありがたいです。

【個】 大阪市内に限定しない活動支援の助成金が増えることを期待しています。

実践 | コロナ対策 [1/1]

【個】 感染対策をして、日々の稽古に取り組んでいます。

【個】 自身が公演を行う際には、必ず座組でコロナ対策のことを確認し、不安なことがあれば、遠慮なく言い合える環境づくりを心がけている。実施する際には、最大限の感染予防対策を。状況を鑑みて、延期、中止が最善であると判断すればどんなに本番が迫っていても決断する覚悟を持って演劇活動に取り組んでいる。

【個】 感染症対策をしている現代社会を舞台とした演劇を作り、本番の舞台上でもマスク徹底、消毒、体温測定を行おうとしている。

【個】 演奏会の途中で場内休憩を入れて会場の換気を徹底する。握手禁止、声掛け禁止。

【団】 緊急事態宣言下であっても可能なイベント制作。具体的には●小規模にて実施●クラスター等マスメディアに取り上げられやすい等の場所での非開催（ライブハウス、劇場等を除く）●アートマネジメントの学習

【団】 イベントを計画しても、集客ができるかどうかかわからず、企画通りには行かないと思います。また、利用される方も用心して、申込みを控えておられると思います。とにかく、感染予防を徹底していることを、もっと、知っていただくために、ホームページやFacebookなどで知っていただけるようにしています。

【団】 感染予防については、できるだけ情報を集め、出来るだけ対策を行なって公演を行いたいと考えています。

実践 | オンライン [1/1]

【個】 オンラインや映像に、表現の幅を広げるチャレンジをしている

【団】 オンラインや映像に活動の幅を広げるべくチャレンジしている。

【団】 展示会場の経営をしています。良いお客様が戻ってこないのにアーティストの活動をどうサポートすれば良いのか迷います。この1年半、通信販売やSNSを使用しての発表や販売に力を入れてきましたが、それだけでは足りないので、今後はインスタライブや、ZOOMなども積極的に取り入れたいと考えています。ただ、経営維持に体力をやられてしまって、なかなか時間の捻出も難しくて踏み出せません。

【団】 無観客配信を積極的におこなっております。

【団】 配信、クラウドファンディング

実践 | 支援 [1/1]

【個】今年度は感染症対策を今まで以上に強化して、市民参加、普及啓発、大学連携、自主製作の事業に取り組んでいますが、中々お客様の数は通常に戻るにはかなりの期間を要すると予測されるので、どこまで又いつまで負担（赤字）額を持ちこたえられるのか、中長期的に事業展開の見直しを行政と検討している。ひとつに昨年度より地元のアーティスト、実演家をして裏方を支援する事業内容を開催している。

【個】企業と協力し、イベント収入の一部をコロナ禍でダメージを受けたアーティストやアート活動に還元している。

メンタル [1/3]

【個】15年間文化芸術の分野でやってきましたが、明確な価値基準がないからか、思った以上にこの分野にも理不尽なことやハラスメントが多く、疲れてしまいました。そしてさらにコロナが重なり創作の意欲がこれまでに初めてとっていいほど消失しており、もう創作活動ができないのかもしれないと思っています。

【個】新型コロナウイルスの感染状況が読めない中で創作活動することに疲れました。 コロナのことを考えず、創作活動のみ集中できる状況になるまで、活動を休んでいます。

【個】もともと少ない収入でしたが、今はほぼありません。生活から、活動まで、幅広く支援が必要です。すでにある公共支援が手厚くなく、ただ精神的にダメージを受けると感じます。

【個】このコロナ禍において、この様に意見を聞いて下さる場を頂きありがとうございます。 考えれば考える程、想えば想う程、不安に押しつぶされそうですが、やはり生きたライブを頑張りたいと思います。

【個】感染対策をしながらの公演をするための人間的、金銭的余裕がない。 緊急事態宣言などで稽古施設が時間短縮になったり、公演中止になったときの補償がない中で、メンバーを集めることに不安がある。

【個】これだけ緊急事態宣言やまん防が延期延期と言われると、次回ライブの企画や、ホテルでの営業などが決められずどんどんと仕事量が少なくなり、活動の幅が狭くなる。 どうせ延期になるから、と先の予定や仕事が入ってこないのは本当に不安。本来であれば年末の仕事も入ってきている時期ではあるが、続く延期宣言のせいで営業先も仕事を決めきれず、いまだに話が入ってこない。大変不愉快。今から好きに活動してください！と言われてすぐライブでの客が戻ってくるのか？営業先（ホテルなど）が延期を気にせずすぐに仕事を入れられるのか？長引く延期宣言に現場は疲弊している。どうしてくれるのか。

メンタル [2/3]

【個】公演をしたいのに、ホールの予約がとれない、金銭的に支援してくれるところが少ない いろんな面で不安が大きく、これからどのように展開していくのか、難しい面が多いです

【個】イベント開催にあたり、無観客と有観客で準備して対応している。映像配信も行い、活動のPRにしている。私たちの活動はボランティア有志の集まりである。メンバー個人の仕事の事情も変化したため、人数が減る中、作業などが激増している。去年は勢いでやれたが、今年度はうまく行くのか不安。

【個】緊急事態宣言の期間が長すぎる。また、その際に本屋を休ませる必要はないと思う。本屋が閉まると売れないのではないかと思います不安になる。

【個】バレエ教室を運営していますが、お金と時間と情熱をかけた舞台が中止となり、経済的にもメンタルも大打撃です。生徒たちの士気も下がり退会や休会が続出、また新規の入会はほとんどなく、採算の取れない部門の閉講を予定しています。支援策はあってもみな芸術で生計を立てている方向けで、私どものようなアマチュアの舞台は対象外です。コロナ前までは順風満帆だったのに、生活のためにレッスンに通う子供たちを見捨てて最低賃金の職に就かなければならない悔しさ。ほとんど死者が出ない病気で、どうしてこんな思いをしなければならないのか。そして、そう考えていることを表立って言えないことも悔しいです。

【個】オリンピック開催後、デルタ株などウイルスの感染性は強まったにもかかわらず、感染拡大に対する予防意識が共有されなくなったと感じる。このような状況で、観客として会場に足を運ぶ際にも、創作者として観客を迎える際にも、会場とそこに集う人々の安全を保てるのかというのは疑問。不安である。スタッフ、キャスト、お客さんから「公演終了後2週間体調不良の申告がなければ無事感染者を出さず公演を終えられた」という建前でイベントを企画するほかないが、不安である。

メンタル [3/3]

【個】10月に公演を予定していますが、府や市の決定に左右されるので直前まで本当に開催できるのか、また観客を何人まで入れることができるのか分からないことが精神的にも物理的、経済的にもストレスです。

【個】アンケートの実施をし、現状を把握しようとしていただき、とてもありがたいと思っています。声を聞こうという姿勢に励まされます。ただ、昨年からの積み重なりもあってか、先行きの見えない状況が加速しているように見え、辟易しています。。。

【個】イベントを生業にしているのでイベントをしたいし、やらなければならないが、感染症対策はしていても、集まらない話さないなどの事柄はイベント開催自体と相反している。オンライン化できる物はしているが、それだけでは経済的に立ち行かない。ノウハウも少なく、本来の事業能力が衰退していくのを感じる。ストレスがすごい。

【団】補助金制度で半額助けて頂けても、残りの半額出す余力が無い。助けて欲しいです。転職する者がどんどん出て来て、精神を病む者も多く出て来ています。

【団】いろいろな支援があり非常に助かっております。今後の活動を継続できそうですが、不安がいっぱいです。

【団】YouTube等を使って創作活動はリモート配信している。対面レッスンも再開しているが、コロナの状況で退会する人も多く、ワクチンを接種した私も多くの学生にまみれたり、コンサートを開催しても安心してできるのか不安な状況。

その他 | 調査について [1/1]

【個】今回はアンケートの機会を設けて頂きありがとうございます。いろんな判断が難しい中、意見を出し合って良い方向に向かうことを祈っております！引き続きよろしくお願い致します。

【個】報告ですみません。 問15の大阪市芸術活動振興助成金のリンクが切れておりませんか？

【個】コロナをきっかけに、これまで根深くあったけれども横に置いていた問題が露呈しているため、こういった実態調査はとても意義あるものだと思います。ありがとうございます。

【個】アルバイトとして劇場で働いていて、運営の事まで入れていないので、質問に答えれてない所もあります。

【個】問9,問10,で延期や中止の件数とありますが、例年なら行っているイベント・ワークショップ数件を、コロナ禍が続いているためあえて企画していません。そのような方も多いのではと思います。もし可能であれば、延期や中止だけでなく、本来ならおこなっていたものをどのくらい企画できずにいるか、ということも質問いただけたらと思います。

【団】中止・延期の聞き取りが、申し込みのあったものに限定されるため、コロナが無ければ当然実施されたイベントが計画段階から中止となったものが多く、実質的な損害額とは大きな隔たりがあり、調査自体が実態把握とは程遠いものになっていると、調査の内容にも大いに不満がある。

その他 | 政策の視点 [1/3]

【個】アフターコロナの文化行政を期待します。

【個】元々趣味でしていた劇団ですが公演できないとなると悲しいものがあり、また活動しようにも政府や文化庁の動きが読めず医療従事者にも迷惑をかけたくないため活動を停止している状態です。ですが、こんな世の中だからこそ表現すること安全に集まれる空間が大切なんだと思います。今できていることと言えば脚本を解放することくらいです。助成金や支援ももちろんですが、それよりも先ず政治家の皆さんが正しい活動とリーダーシップを取って早くこの状況を少しでも良くしてくださることを望んでおります。

【個】小規模でプライベートなイベントは実施できます。録画配信もしています。でも、せっかくならコンサート会場の響きの中で、安心して生演奏をお楽しみいただきたい。遠回りだけど、医療の充実が一番大事だと思います。

【個】文化芸術分野においては、大阪以外に居住するアーティストや関係者と関わって実施されるものが多数あります。（作品制作、公演の実施など）つまり、東京をはじめ、他行政の支援方針や問題解決が結果として大阪在住の我々の現状にも関係してくることとなります。特に経済規模が大きく、大阪の文化芸術関係者がコンテンツや予算面で依存せざるを得ない東京の状況が好転しない限り、根本的な状況改善は難しいと考えています。大阪の文化芸術関係者を支援して下さるおかげでミクロな範囲での活動持続・再興が可能ですが、最終的には国政が積極的に国民活動を支援し経済活動がいち早く回復することを切に願うばかりです。

【個】現場で動員可能な限り、感染が拡大してしまうのは必至です。いっそのこと一切のイベント事業を中止させ、しっかりと補償金を用意してほしい。

【個】文化芸術分野はほとんどの家庭が、生活の余裕があり、行うものという流れであることが、日本の文化に対する意識が低いと悲しく思う。

その他 | 政策の視点 [2/3]

【個】とにかく「わかりにくい」「根拠がない」「見通しが立たない」これでは継続も相談も対策もできない！

【個】やれることはとにかくやっている。しかしながら、病床逼迫の回復やワクチンの進捗など、社会不安にあたるものの根本解決がなければ、どんな支援も付け焼刃に過ぎず、対症療法的な生活・活動資金の給付、補助、借入でしのぐしか方法は無い。当たり前なことだが文化事業は単体では存在しえないのだから。

【個】補償、支援がしっかり行われ、その期間を経済的にも活動的にも自粛できるような形になれば、人は落ち着いて自粛にも協力できます。

【個】（もう少しおちついたら）関東圏など発表機会が減った他府県の公演や展覧会を、積極的に招致し、他府県に移動しなくても鑑賞できるような機会を増やしてほしいです。

【個】経済と感染予防と二兎を追うのではなく、まず、しっかりした補償をしてコロナを抑えこむことに注力してほしい。人々から感染のリスクが無くなれば、放っておいても経済は動き出すと思う。

【団】再び、文化芸術活動が普段通り、再開できる世の中になった時に、消えかかっている芸術文化の灯火が消えないように、施策を行うべき。

【団】国の経済状況が悪化した時、1番にコストカットとして狙われるのが文化芸術である。しかし、文化芸術は単なる娯楽ではなく、人の心や社会との繋がりを作る面もあり、コストと天秤にかけてカット出来るものではない。表現者たち個々がそれらを言葉にしていく必要があるが、まずはドイツのように、公が、医療や福祉同様に文化芸術を守るべき理由を国民に対して提言し、理解に努める必要がある。これがなければ、表現者たちがいつまでも言われのない差別や暴言で苦しむことになる。

その他 | 政策の視点 [3/3]

【団】昨年1年間を経て、資金面での不安があったが、各方面からの助成金などの活用ができており、資金面での不安は、コロナの前とさほど大きな差はないように感じる。勿論、観客の減少が著しく、入場収入のみでの独立した公演収入の見込みは皆無だ。それよりも別の大きな問題に直面している。昨年の実績を踏まえて、ある程度のガイドラインなどに沿って公演事業を継続していけるものと考えていたが、さらなる感染拡大により翻弄される結果となっている。長期戦で消耗戦という側面が否めない。集まることに関して個々に温度差もあり、ワクチンや検査といった問題に団体としてどう向き合うのか、丁寧に説明していくことが必要だと考えている。このような時だからこそ、芸術文化の分野、特に「言語」としての演劇が必要だと思うからこそ、創作発表の場を単純にゴールとするのではなく、その経過である「作る過程」の重要性を強く感じる。アーティストとして一個人として、人が集まることを一から考え乗り越えた結果としての創作発表の場という形で取り組むのが、今できる最善なのではないかと考える。オンラインではなく、ライブが必要だと思っているのは、何も演劇や音楽、芸術分野のみならず、一般の社会に生きる人々にとっても最大の関心事で重大事なのではないかと思う。一方で、創作活動を継続することで、観客の側も偏りを見せ、劇場へ来る人、来ない人、のような狭い世界に閉じこもってしまわないかと危惧している。対話が何よりも必要で、そういう小さな場のつながりへの支援が可能であるなら期待したい。

現状報告・その他 [1/3]

【個】 このままだと廃業です。

【個】 オンラインで販売できる作品形態でこちらは好調であり衣食住は心配ない。ただコロナ以前の収入には程遠く、キャリアが大きく損なわれたと感じる。緊急事態宣言が定期的が発出される大阪ではアートイベントの中止延期ではなく企画自体がされなくなっている。和歌山などに出展しているが機会は多くない。個人的に発表するにしても、ある程度感染のリスクが少ない会場があればと思うが、ギャラリーや既存の展示会場はそうではないので困っている。何より外出自粛の中で個展をやる意義が見出せず、やっても迷惑をかけるだけではと思い、二、三年をやり過ごすつもりである。

【個】 たくさんの支援を考えていただきありがとうございます。いつか返せるように芸に精進します。そのためにも、今は特に、これからもご協力いただけたらと思います。今後ともよろしくお願いします。

【個】 私はライブハウスの音響やレコーディングエンジニアとして生計を立てています。現在は助成金、補助金等の様々な公的援助や得意先の厚意に支えられて生活が成り立っていきまして、皆様には大変感謝しています。しかし、この状況が続けば助成金や補助金を利用することも難しくなると考えており、その際には転職も考えています。

【個】 いつも支援していただきありがとうございます。

【個】 一所懸命に生きていきます。

【個】 PCR検査代が高く、毎公演全員分を出せない。

【個】 個人的に助成金など受けられているので、今は出来ることをするだけです

現状報告・その他 [2/3]

【個】一刻も早く事態が落ち着き、気持ちよく動けることが出来ることを願っています。

【個】今年度より文化会館の職員となり、文化芸術活動における社会包摂を学び、企画を検討していく立場にあります。具体案もこれからはありますが、制度等も把握し、実践できればと考えております。

【団】可能な限り自力で公演活動を続けていく。その信念が無ければ簡単に周りの状況で公演中止になってしまう。我々は子どもが出演する団体なので、運営する大人が先にあきらめてはいけないと思い活動している。

【団】長引く不透明な状況に疲弊も感じている。できることはすべて取り組んできた。寄付、一次協力金、助成金、クラウドファンディング、バザー、賛助会員キャンペーンなど。その間スタッフも辞め、募集しているもののスタッフがみつからず、これ以上事業実施が難しい、と感じている。そのため助成金申請にためらいがある。ただ、去年は人件費が減った分、余剰があるので幸いであり、事業の継続と組織のミッションをすり合わせて社会状況を見据えて、今後を考えていきたい。

【団】アートオブフューチャー、大阪文化芸術に申請しましたが、予算の上限に達したということで申請がおりませんでした。おりなかったからといって、中止することはできませんが、赤字です。今後、どう取り組みたらいいのか。。わかりません。

【団】大阪府下で飲食業許可を有しないライブスペースとイベント音響業務を、40年に渡り法人経営しております。同業者でありながら飲食業許可を有して協力金支給を受けている店舗との格差を、痛感しています。一時支援金や月次支援金だけでは、焼け石に水状態で3年間無利息で最長5年据え置きの特典融資も固定費で間もなく底を突きます。2年以上も営業を中断されてしまうと、もしもコロナが終息したとしてもV回復は望めません 切実に何とかありませんかね？ライブ配信も試みましたが一時的なもので経営的に程遠い物です。やはり求められるのは、元のライブです。生き残る為に今出来る事は、祈る事と途絶えている顧客へのアプローチ位しか 具体的には出来ません。

現状報告・その他 [3/3]

【団】 公立の公民館であるので市から助言・補助をいただいています。

【団】 まず、会館の予約がとれない。チケットが売れない。コロナのために練習が思う存分出来ない。大阪文化芸術の助成金もホールがとれない。期間が短い。チケットが売れない。お客様を入れての公演への助成金とありましたが、なかなか難しいです。

【団】 去年は展示や外部イベントがいくつも中止になりましたが、今年は無理に予定を入れていないだけ。休業要請はされないので、予定した展示は少しでも状況をよくして続けるしかないだけです。

【団】 他の音楽事業者の皆さまも苦しい時期かと思いますが、その中で出来る事を判断し、協力しあい可能な限りイベント等を継続していく事や、自社としても新しいコンテンツの開発を進めていかなければと考えております。

【団】 かなり苦しい状況です。

ご協力ありがとうございました

調査主体：大阪市



協力：大阪アーツカウンシル

